

第 67 回 愛知県河川整備計画流域委員会 議事抄録

<前川流域（第二回）>

日時：平成 30 年 12 月 27 日（木）

14 時 50 分～15 時 50 分

場所：愛知県庁 6 階 正庁

◇議題

前川流域（第二回）

- 前回委員会での意見と回答
- 流域及び河川の概要
- 河川整備計画の方向性について
- 質疑

◇質疑

【委員】

前川左岸樋門を改築して流れをよくするという事は、地元の住民にとってはとても安心できることである。現在取り付けてあるゲートインゲートも、改修の際には引き続き取り付けてもらいたい。

また、前川水門についても耐震対策を早期にしていきたい。

【委員】

名鉄三河線の橋梁の桁下が低く、大雨が降ると桁が邪魔をして、そこから上流があふれるのではないかという心配がある。

また、江添川は二級河川の最上流点を超えると極端に断面が小さくなってしまう。上流側に開発計画があるということなので、江添川の二級河川区間の拡幅など検討してもらえるとありがたい。

【事務局】

水門閉鎖時の水の流れについては、ゲートインゲートを付けて、高潮時に内水位が外水位よりも上がった場合に流れるようにした。

名鉄三河線は桁下高が低く、ハイウォーターレベルとほぼ同じぐらいで、例えば 10 分の 1 の雨が降ると桁に当たることも想定されるが、下流の樋門を改築すると水位が全体的に下がり、クリアできると考えている。

避難訓練等も地元で活動されているということで、継続的に実施していただくとありがたい。

【委員】

名鉄の線路が冠水すると踏み切りが自動的に遮断されてしまい、名鉄が止まってしまう。通勤・通学で利用する方が非常に不便するので、その点も考慮していただきたい。

**【事務局】**

実態等調査し、必要に応じて検討する。

**【委員】**

市街化調整区域から市街化区域に編入されるという計画図がある。農地があって保水機能があると言っていたが、ここが市街化されることを想定して計画をつくっているのか。

**【事務局】**

資料－２の４１ページに示すとおり、市街化区域への編入が見込まれているので、市街地の流出率を適用して計画流量を算定している。

**【委員】**

河川環境について、資料－２の５２ページに市街地部における環境と調和した景観等の維持に努めるとあるが、市街地部における環境と調和した景観とはどのようなものか。ハマボウという植物が１株見つかっているが、護岸植生もこの川の特徴を表す重要な要素なので、何が大切なのかを考えながら、守るべきところも含めて書いていただきたい。

また、ここでは子供たちがヘイケボタルの放流を行っているところがあるが、ボタルが生息できる環境づくりになっているのかどうか不安である。護岸がコンクリート化されていると卵は孵らないので、放流しているエリアのところだけは護岸に対してどのような対応をするのか、どういう連携をしていくのかが見えてくるとよい。

また、アンケートは現状と課題が混同されているので、わかりやすくなる工夫をしていただきたい。

**【事務局】**

ハマボウについては、特にそれに注目した対策というのは考えていなかったもので、検討する。

前川の環境については、３６ページの現状と課題で整理しており、全川的に自然環境はあまりないが、下流部は一部干潟になっている。そういうところを特徴として、その保全を記載している。

また、蛍の活動については、県の管理区間外ではあるが、流域での活動ということでまとめている。具体的にどのような支援ができるかというのは、今後必要に応じて検討する。

アンケートは、わかりやすくなるよう修正する。

**【委員】**

洪水と高潮というのは同時には考えないが、両方の現象が起こっているときがこの地域では危険なように思われる。降雨と高潮に対して水門をどう操作するのか。

また、平成29年に整備したゲートインゲートはどういうイメージで取り付けたのか。新しい水門の設計はどう考えているのか。

**【事務局】**

既存の水門へのゲートインゲートの設置については、洪水流量を流すのは難しいので、豊水流量でサイズを決めて、それが既存のものに設置できるものについては付けるという方針で進めている。

操作は、基本は潮位にあわせてきめ細かく行うが、現実には、特に暗い夜などは操作員の方がきめ細かく操作できないのではないかと思われるので、ある程度時間的な余裕、各操作の判断の余裕を確保できる助けになればよいということでも整備を進めている。

**【委員】**

現実的にいいことだと思うが、高潮水門の操作ルールを明確にしないままですと、それが仇になるような懸念もあるので、そこはしっかり検討したほうがよいと思う。

**【事務局】**

今のルールでは、高潮警報などが出たらまず閉めることとなっている。その後内外水位を見て、内水位が上がったら開けることになっているが、判断が難しいところである。ゲートインゲートがあれば、閉めていても上流の水位が上がれば必ず排出されるので、操作員は安心して閉められるという利点もある。また、津波の時は、操作員は逃げなければいけないので、閉めたまま逃げても内水被害を軽減できるのではないかと考えられる。改築にあわせてゲートインゲートを付けるのが有効であるとして整備を進めている。

**【委員】**

どのような設計とするのか、示していくのは難しいのか。

**【事務局】**

新設のものはまだ検討すべき点がある。既存のものはビームの間しか取り付けられないので、大きさが制限される場合はあるが、ないよりはあったほうがよいと思う。

**【委員】**

どんな改築をするのか、どんな操作をするのかを住民にしっかり説明するよう配慮していただきたい。

**【委員】**

参考資料について、BODの値が平成16年から平成25年までであるが、別表には平成20年から29年までである。統一して書いていただきたい。

**【事務局】**

資料の年次がずれているので、最新のデータに更新するよう修正する。

**【委員】**

資料-2の46ページの河川整備基本方針の前川の縦断図を見ると、ハイウォーターレベルに（新）と（旧）があるが、これは将来見直すという意味なのか。そうであるならば、どういう理由なのか。

また、見直しが可能ならば、江添川の名鉄三河線のところも改善される余地があるのではないかと思うがどうか。

**【事務局】**

（新）、（旧）とあるが、採用しているのは（新）のほうである。理由は、出発水位が以前よりも高くなっているからである。これは、朔望平均満潮位から水位を設定する際に、衣浦湾については湾自体が川のような形状をしており、湾の中でも水位が上がってくるということで、従前は河口部の朔望平均満潮位を使用していたところ、今回は湾の中での水位上昇を見込んで設定し直した。

[了]